

▶第20回目となる今回は、山梨学院大学 現代ビジネス学部 2年 武川昌生さんが、株式会社 古名屋 代表取締役 伴野公亮氏 を取材しました。



経営者

株式会社 古名屋
代表取締役
伴野 公亮 氏

常在初心をモットーに

学生



山梨学院大学
現代ビジネス学部
2年 武川 昌生 さん

▶ **学生** 会社の概要と事業内容について教えてください。

▶ **経営者**

古名屋は明治45年に創業し、今では100年の歴史を超えるまでに至りました。現在の主な業務内容としてはホテル業をメインとして、宿泊、レストラン、宴会、プライダルを行っています。また、外部の事業所として、ゲストハウスウエディング会場やワイナリーなどの運営も行っております。

▶ **学生** 求める人材像とは？

▶ **経営者**

古名屋自体の存在理由とその目的として「古名屋フィロソフィー」(企業理念)というものがあります。それは「古名屋は人と人との結びつき出会いに感謝し、歓喜と感動を創造して、縁する人々の幸福を実現していきます。」そして、「地域になくってはならない、歓喜、感動、創造企業として、各自が明るく元気に、爽やかに自己成長することを目的とします。」といったものです。この企業理念に共感、そして応えられるような人材を探求しています。また、古名屋では「幸福の実現=自己成長」と考えており、縁する人々の幸福、そして自らの幸福のためには自己成長が必要だと考えています。求める人材ということであれば、自己成長を目指す人であるということも重要になってきます。

▶ **学生** 従業員に持って欲しい意識はありますか？

▶ **経営者**

古名屋には新入社員の勉強会というものがあります。そこで私はある問いかけをします。それは「皆さんは将来幸福になりたいですか?」というのですが、もちろん不

幸になりたい人はいませんから、皆さん手を挙げますよね。そうなった時に、あなたにとっての幸せってなんですか?ということになってくるわけです。一人一人の幸せの形というものは同じではないわけで、お金持ちになりたいという人もいれば、素敵な人と結ばれたいという人もいるというように、幸せの価値観はそれぞれ異なります。ただ、全員に共通して言えることは、今日より明日が、今日より未来が良くなることを望んでいるということです。では未来を良くするためにはどうすれば良いのかという時に、先程お話しした自己成長の意識というものが大切になってきます。

具体的に自己成長するためにはどういったプロセスが必要かと言うと、何か成し遂げたいことがある場合、まずは自分で調べたり、その事について詳しい人に聞いたりします。次に、実際にやってみる。そうすると結果はどうであれ、人はやってみた過程を通して様々なことを学びます。そういう「聞く・やる・学ぶ」という連続性を大切にしていけば、おのずと自己成長がなされ結果として幸福の実現へと繋がるのです。

私は自らが幸福であることで初めて、お客様を本当の意味で幸福にすることができると考えています。です

から、社員には幸福へと繋がる自己成長のための「聞く・やる・学ぶ」という意識を持っていてもらいたいと思います。

▶ **学生** 社長の考える「おもてなし」とは？

▶ **経営者**

自らが相手に対して、こうしてあげたいと自発的に思えるのかどうか大切になってくると思います。この、自発的が大事で、仕事だからやっていると思っている以上は、どれだけ素敵なサービスをしていても、それは本当の意味でのおもてなしとはいえないと思います。「利他の精神」という言葉があって、反対の意味を持つものとしては利己の精神ということになるのですが、この考えが大切になってくると思います。相手が喜んででも本来は自分が得するわけではありませんが、利他の精神を持つことが出来れば、相手の喜びも自分の喜びとすることができてきます。そして、利他の精神を持って相手の喜びが自らの喜びとなり、相手に喜んで欲しいと思って行動したときが、本当の「おもてなし」というものではないでしょうか。

取材を終えて...

経営者の方への取材ということで、緊張を抱えたまま当日を迎えましたが、社長さんがとても気さくで楽しい方だったこともあり、終始和やかに取材を進めることができました。また、今回取材を通してお話をさせていただく中で、自分自身考えさせられることや、学ぶことが本当にたくさんありました。その全てを記事としてレポートに載せることができないのが非常に残念ですが、話して頂いた貴重なお話の数々は自分の財産として胸にしめておきたいと思っています。

最後に、レポートの内容を記事に起こすにあたって、本来、字数制限のある記事の場合、内容の要点だけを抜き出して、例え話などは割愛するのが常ですが、私はこのレポートを読んで下さっている方に社長さんの人柄をできるだけ伝えたいと思いました。そこで、インターネットで調べれば出てくる情報である会社概要等は簡素にまとめさせていただき、代わりにそれ以外の内容を出来る限り充実させる形で記事としてまとめました。

